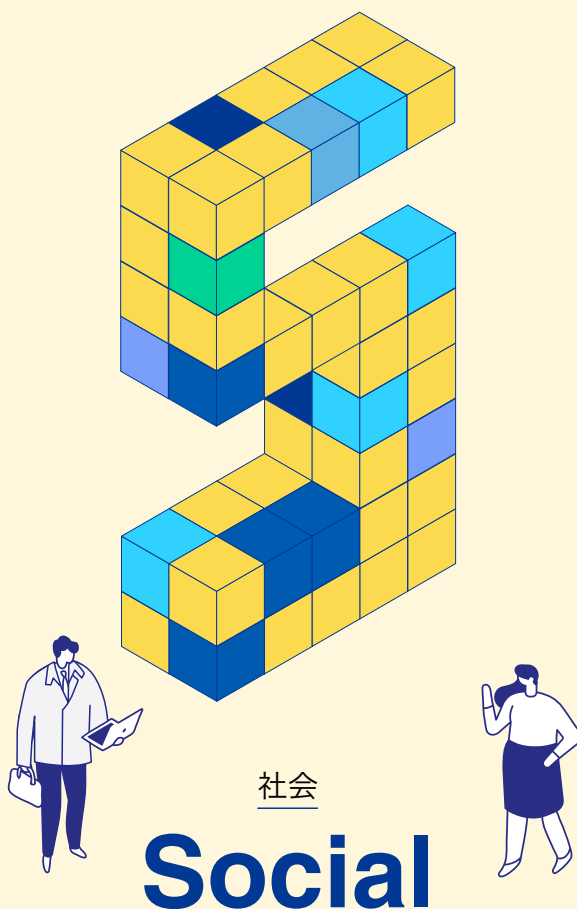
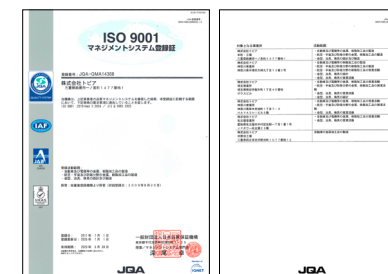




トピアグループは、地域社会の一員として社会的責任を自覚し、事業活動や社会貢献を通じた積極的な交流を図ります。これにより地域社会の活性化と人々の豊かな生活環境づくりに取り組み、多様なステークホルダーと連携し、持続的かつ幅広い社会貢献を目指します。

製品安全性確保に向けた取り組み(品質保証)

トピアグループは、常に技術力およびモノづくりに関わる業務品質の向上に努めています。お客様に満足いただける安全・高品質な製品を提供するため、グループ共通の品質意識のもと日々活動しています。特に安全性確保を最優先課題と位置づけ、全社一丸で取り組んでいます。また品質マネジメントシステムの認証取得と継続的な更新を通じ、すべてのステークホルダーから信頼される企業を目指していきます。



ISO 9001登録証

定期品質パトロールの実施

品質保証部を中心に、各製造工程の品質管理に加え、作業手順や5S、作業環境、変化点の確認を目的としたパトロールを定期的実施し、品質改善事例を全社で共有しています。また、不適合データを分析し、再発防止および未然防止に取り組んでいます。これにより、さらなる品質向上を図っています。



品質パトロール

品質保証に向けた仕組みづくり

製造工程における品質保証を徹底するため、各工程の品質手順を明確化・標準化しています。管理項目の見える化によって作業のバラツキを抑え、安定した製品品質の実現を目指します。また、定期的な監査を通じてシステムの有効性を検証し、改善活動を推進。継続的な改善に全社で取り組んでいます。



品質標語表彰式

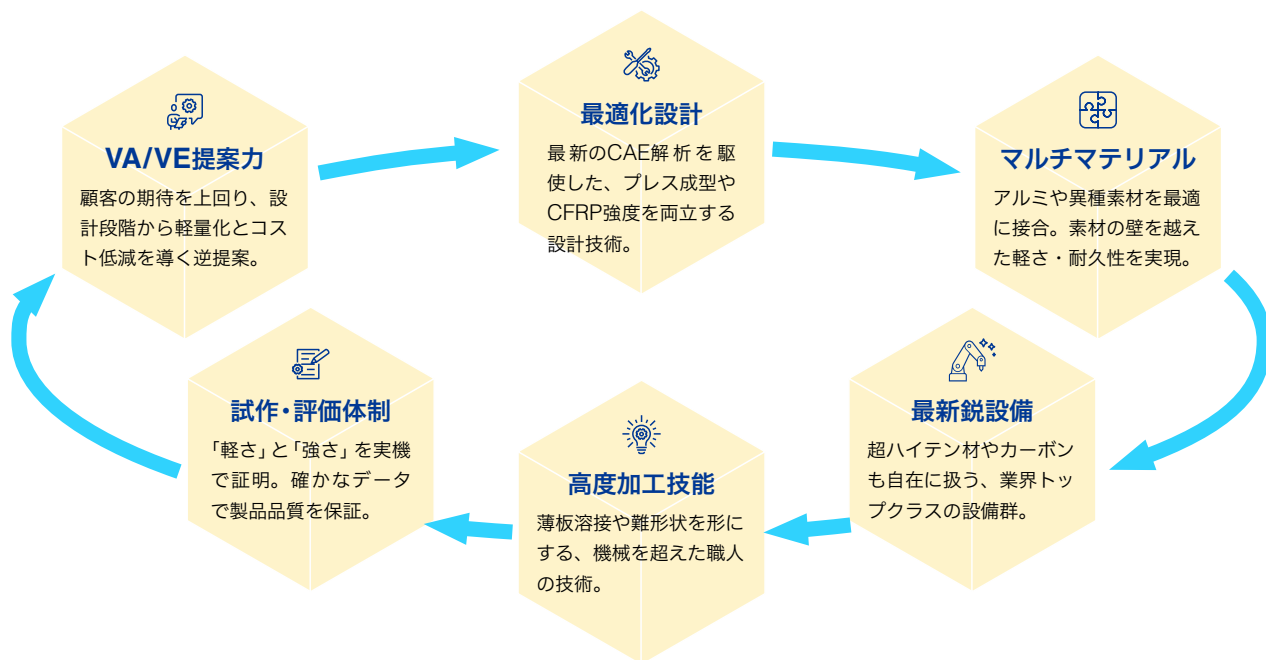
高付加価値製品の開発

失敗を恐れず未来を創る「チャレンジ精神」

お客様をはじめとする様々なステークホルダーの声をトピアグループの意思決定に反映させ、業務の革新や品質向上に活かしています。ステークホルダーとの相互理解と協働を深めることで、さらなる価値創出に向けた継続的な取り組みを積極的に推進していきます。

多彩な技能者の育成

技能研修制度、業務に必要な公的資格取得支援や、外部教育機関の活用、OJTに注力しています。難易度の高い仕事については、物理的、技術的な課題を克服し、「トピアブランド」としての高付加価値製品を提供するため、国内外で技能者の育成に一層努めています。



亀山工場の稼働が開始しました

三重県亀山市で、半導体関連設備の量産を主とした新しい工場が稼働を始めました。量産に特化した最新設備を整え、お客様の品質ガイドラインに準拠しています。さらに新工場では、将来の基準高度化・厳格化にも対応可能な体制を整えています。すべての製品は量産独自の手順に沿って厳格に管理されており、資材の出庫から、製造、品質管理、完成品の保管まで、一連の工程を管理できる仕組みとなっています。また、試作段階のモノづくりだけでなく、生産の立ち上げから量産までを一貫してサポートする「ラインビルダー」としてのトピアの力も、この新工場の立ち上げに十分に発揮されています。



成長を実感する職場づくり(人的資本経営)

一人ひとりが成長を実感できる環境づくり

トピアグループは、価値創造を通じて社会課題の解決に取り組むため、多様な個性やスキル、経験を持つ人財の育成を推進しています。日々の業務や教育・研修制度など多様な機会を通じて自ら成長し、それを実感できる職場環境づくりに注力しています。

部門責任者との定期面談や目標設定を通じ一人ひとりの成長を支援し、研修プログラムやキャリア支援を強化。社員の成長実感を醸成し、組織へのエンゲージメント向上を目指します。

	階層別教育		基礎～応用力	テーマ別教育	全社共通研修 (国内外子会社を含む)	外部	OJT							
上位管理職	新任部長研修	評価研修 考課者研修	品質製造管理教育 環境保護推進教育 労働安全衛生教育	人権・ハラスメント研修 防災・危機管理研修 サステナビリティ研修 スキルアップ研修	メンタルヘルス研修 安全衛生研修	コンプライアンス・リスクマネジメント研修 情報セキュリティ研修	公的資格制度 技術講習	上司や先輩社員による日常的な指導						
	新任管理者研修													
中堅管理職	リーダー研修	実習生教育												
	中堅社員研修													
一般	部下育成研修	実習生教育												
新入社員	ビジネスマナー研修													
	フォローアップ研修													

成長を実感できる職場づくり

トピアのパーパスである「豊かな未来の実現に向けて 変化・要求に挑戦し続けます」のもと、“人”を中核に据え、未来を創造する重要な資本として「人的資本経営」を積極的に推進しています。

社員の一人ひとりの成長こそが、企業発展に直結すると確信しており、教育に注力しています。

変化が激しい現代では、従来の常識が通用しない場面も増えています。そこで当社は、社員が成長を実感できる環境を作る為に今年の4月から教育課を設置し、研修やスキルアップ活動を通じて個々の成長を促しています。

創業以来の経営理念「野鳩の精神」「救急病院の責任感」「チャレンジ精神」は、従業員が自発的に行動し、チームワークを醸成する為の揺るぎない指針です。この理念を体現すべく「人づくり」を通じ、変化に強く、新たな価値を創造する組織を目指します。

地域未来牽引企業としての自覚を持ち、当社は人財育成に重点を置くことで、より良い地域づくりに貢献してまいります。



専務取締役
財務本部
企画管理本部
小林 龍浩

成長を実感する職場づくり(人的資本経営)

人権の尊重

トピアグループは、人権尊重を重要な責務と位置づけ、「トピアグループ サステナビリティ・ガイドライン」を制定し、役員と従業員が一体となって遵守しています。ガイドラインでは、“人権尊重と公正な労働環境”に関する方針を掲げ、全社的に取り組んでいます。

その内容は、グローバルに事業を展開する企業として、「世界人権宣言」や「ビジネスと人権に関する指導原則」など国際的に認められた規範を踏まえ、策定・運用。児童労働禁止、適正賃金支払い、法定労働時間遵守、公平な採用・評価、多様性尊重、差別・ハラスメント根絶に努めています。従業員一人ひとりが人権意識を高められるよう、定期的に研修や啓発を行い、持続可能な社会の実現に貢献しています。



ダイバーシティ推進

トピアグループでは、多様な従業員が活躍できる企業風土の醸成を目指し、女性の活躍推進、障がい者雇用、外国人従業員の活躍推進やLGBTQ+への理解促進など、様々な取り組みを進めています。従業員一人ひとりが互いの人格・個性を尊重するとともに、人種、宗教、国籍、性別、年齢、障がいの有無などによる差別がない企業風土の醸成を進めています。

労働安全衛生・健康経営

トピアグループは全従業員と地域社会の安全・健康を守るため、安全衛生管理を徹底し、安心して働ける職場環境づくりに努めています。法令資格が必要な設備について、運搬時の落下・転倒防止や外部機関によるリスクアセスメント体制強化を推進。心身の健康が業務向上に重要と考え、ストレスチェックや長時間労働対策、健康増進施策を推進しています。

人権デュー・ディリジェンス

2024年度に実施したアセスメントに基づき、グループ内において人権リスクを低減するため、人権に関する規定類を定め整備を行いました。



取り組みの全体像

健康経営システムの導入に向けて

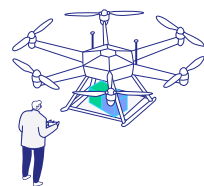
従業員の多様な働き方を推し進めるべく、育児や介護規定を更新。育児世代のキャリア形成や、快適な職場環境の維持向上に向け、仕事と生活の調和を図るべく継続的な改善に取り組んでいます。

残業時間の抑制だけでなく、特に従業員の健康管理への取り組みとして、希望者に対して保健師との面談の場を積極的に設けています。



メンバー(左から)

- ① 黒瀧 浩文 エンジニアリング部 エンジニアリングソリューション課(プロジェクト統括アドバイザー)
- ② 吉田 慎吾 エンジニアリング部 生産技術課 技術開発(プロジェクトリーダー)
- ③ 板谷 琴 エンジニアリング部 エンジニアリングソリューション課(エンジニア)
- ④ 本田 昌司 エンジニアリング部 エンジニアリングソリューション課 次長



特集

未知への挑戦 純国産ドローン開発

ゼロからの挑戦

黒瀧 純国産ドローン開発のきっかけは、エンジニアリング部の執行役員からの「かつてない新しい事業をやろう」という言葉からでした。そこで、神奈川事業所で扱っている炭素繊維を使って、ドローンを純国産で作れないかという話が出ました。

話が進む中「国内にかつてない、大型のドローンを作る」という目標が決まったことは、大きな挑戦の第一歩でした。開発メンバーは各部署から人を募り、手探りの状態でプロジェクトが始まった形でした。

本田 プロジェクトリーダーについては、以前、EVコンセプトカー製作プロジェクトを率いたリーダーに引き続き担当してもらってはどうかとの提案もありましたが、人財育成の観点から、今回は違う人に焦点を当てました。そこで吉田さんに決まったわけですが、吉田さんはリーダーに任命された経緯を覚えてますか？

吉田 はい。担当執行役員から直接、声をかけてもらったのがきっかけです。私が炭素繊維を使った製造現場にいたことと、営業経験もあるというのも重なって、プロジェクトリーダーに抜擢されました。

黒瀧 プロジェクトリーダーになるのは初めてと聞きましたが、不安はありませんでしたか？

吉田 そうですね…。最初は「何から始めればいいのか？」という不安な状態でした。でも、上司や同僚と話がしやすい風通しの良い環境も幸いし、特に先輩方に色々相談させていただきプロジェクトを円滑に進めていくことができました。

本田 吉田さんがリーダーに決まったあと、プロジェクト統括アドバイザーとして黒瀧さんが加わりました。本社側の工場を動かす必要もありましたので、本社の担当者にも入ってもらい、

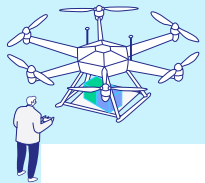
さらに各部門、生産管理、調達、製造といったメンバーで体制を固めたわけですが、吉田さんは、実際にプロジェクトを動かしてみてどうでしたか？

吉田 それぞれの分野で活躍されている方が集まり、各々の得意な部分を存分に発揮してもらうことに重点を置きながら進めた結果、一つの目標に向かう連帯感の重要性和牽引する難しさを実感することができました。

難題にぶつかっても諦めない

吉田 ドローンは会社にとって初の取り組みだったこともあり、製作にあたっては細かな情報収集が大変でした。普段の仕事では二輪や四輪のレース部品の製作に関わることで多いので、強度や軽量化といった経験を活かしながら取り組みました。しかしながら、走るよりも飛ぶために必要な「プロペラ」の知識がまったくなかったことが大きな壁でした。そこで飛翔体を研究する株式会社ドローン技術研究所の方々の知見を借りながら、短い期間の中で、全員で試行錯誤を繰り返しました。

本田 「ジャパンドローン2025」への出展が既に決まっていたので、逆算しても開発期間が5か月しかなく、みんなで手探りの状態で製作して、試験飛行場にプロペラを持ち込んでテストも行ってと、とにかく必死でした。初めての経験で多くのことを吸収し、成長も感じられたのではないのでしょうか。



黒瀧 テストは株式会社ドローン技術研究所の方々に教わりながら、図面を描き、部品を作って、即スタートというスピード感でした。解析ソフトや計算である程度の予測はできるんですが、実際とは異なります。飛行テストで失敗しては、その都度改良をするといった繰り返しでゴールを目指しました。現場の努力、株式会社ドローン技術研究所の方の的確なアドバイスときちんと試験ができる環境、そして運。これらの要素がうまく絡み合ったんだと思います。

本田 テストも大変でしたけど、実はほかに大きな山場もありましたよね。当初、機体の組み立ては外部の方をお願いしていましたが、組み立ての2か月ほど前に断られたため、急遽内製での対応を余儀なくされました。まったく想定していなかった事態に混乱を極めました。当社経営理念の一つ「チャレンジ



精神」の姿勢で全員が前向きに取り組みました。

吉田 私は、組み立ても内製化となった時に「できないのではないか」というより「なんかやれそうだな」と感じました。その気持ちを貫いたことが結果的に成功を導いたのかなと。できる、できない、ではなく「まずやってみよう」の風土があるトピアでだからこそ、一丸となってやり遂げられたのだと思います。

若手の挑戦と成長が循環する環境

本田 ありがたいことに「ジャパンドローン2025」での展示は予想以上に話題となりました。その際に2026年の出展にもお誘いいただけたので、次回も出展する予定です。引き続き話題を集める展示を目標に、若手の板谷さんに主担当になってもらい、着々と準備を進めています。ところで、板谷さんはプロジェクトに携わってみてどうでしたか？

板谷 私が入社1年目というのもあって、色んなことを難しく捉えて悩んでしまうことが多かったです。でも、すぐ相談できるよう上司が隣にいてくださったのもあって、だんだんと“新しいことに挑戦させてもらっている！”という感覚が大きくなり、嬉しさにつながっていきました。

本田 特に印象に残っていることはありますか？

板谷 樹脂を基材とする3Dプリンターを使うことになり、知識がなかったので上司に根掘り葉掘り聞いたのですが、実は上

司も3Dプリンターに詳しくないのが判明して、一緒になって調べたことです。それと、吉田さんや黒瀧さんも初対面から

すごく話しやすく、質問や相談にも細かくしっかりと答えてくれるので、とても働きやすい環境です。皆さんベテランなうえに日々前進してい

本田 はい。期待しています。板谷さんには展示会の準備だけでなく、多くの先輩のサポートも受けながら、金属・炭素繊維・樹脂といった、材料を選ばないマルチなモノづくりを目指して欲しいです。これからも、チャレンジしていきましょう。

板谷 色んなことを早くかららせてもらっているという実感があります。トピアで働き始めて、私は考えて行動に移していく仕事が向いていると気が付きました。経営理念の通り「チャレンジ精神」が根付いている環境だと感じています。今後も、どんなことでも、「まずはやってみよう！」の気持ちで仕事に取り組んでいきたいと思っています。



社会貢献活動

基本的な考え方

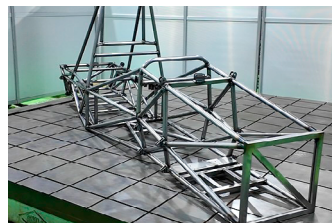
トピアは、1973年の創業以来、各拠点やグループ各社が立地する地域の皆様のご支援をいただきながら成長してまいりました。今後も社会的責任を果たすべく、環境保全・災害支援・人材育成・地域貢献など多様な分野で、地域社会としっかりと会話を重ね深めながら積極的に活動を展開し、「人と社会」が共に豊かに暮らせる持続可能な社会の実現に一層貢献していきます。

学生フォーミュラ支援(産学連携)

学生フォーミュラ大会は、参加する大学ごとにチームを組み、フォーミュラスタイルのレーシングカーを製作し、様々なレースを行うものです。1年間でフォーミュラカーの設計からパーツ製作を行い、企画力・技術力・動力性能を総合的に競い合います。学生は、実践的なモノづくりや自動車の開発工程を経験することができます。将来の自動車業界を支える人材を育てる目的で、私たちトピアは東京工科大学へ協賛、技術支援を行っています。

スポーツチームへの協賛

トピアは、三重県の様々なスポーツチームへ協賛し、積極的に活動を支援しています。2021年からはアトレチコ鈴鹿クラブ、伊賀FCくノ一三重、三重バイオレットアイリスなど幅広い地域スポーツに加え、SUBARU BRZ GT300のモータースポーツにも協賛を行っています。さらに、未来を担う子どもたちに向けた体験型イベントの企画・開催を通じて、心身の健全な育成と地域スポーツ文化の活性化に貢献するための活動を今後も継続していきます。



学生フォーミュラ車体製作



スポーツチーム協賛



ウミガメの保護と海の未来を守る、 海岸清掃活動

トピア本社のある、伊勢湾沿岸は古くからウミガメの産卵地として知られており、当社では地球環境の保全と生物多様性の保護に向けた取り組みとして、2025年より海岸清掃のボランティア活動に定期的に参加しています。昨年度は計5回の活動で、延べ163名の社員とその家族にもご協力いただき、多様なプラスチックごみの回収に努めました。今後も地域社会と連携を深めながら、持続的な環境保全活動に取り組んでまいります。

